

## 請願書

東京都大学管理本部が本年8月1日以降に発表した  
東京都新大学構想に関する請願

2003年11月26日提出

東京都議会議長 内田 茂 殿

石野好一

岡本順治

荻野綱男

落合守和

木之内誠

小林賢次

西川直子

初見基

藤原真実

保阪靖人

## 紹介議員

## 請願項目（願意）

これまでに培われた都立4大学の教育研究上の蓄積は、都民の共有財産であるので、これらを活かした大学作りをしてください。

## 請願の理由

現在の都立四大学とその大学院には、それぞれ、開学以来長年月にわたる教育研究上の蓄積があることはいうまでもありません。そして、東京都の会計予算からこれらの蓄積のためにこれまで相当規模の投資が積み重ねられてきました。最も規模の大きい東京都立大学の場合、入学試験の難易度、各メディアの発表するランキング等を通じて、その社会的評価の極めて高いことが伝えられることはあったものの、大学側の広報活動の不足から、都民の大学でありながら、その社会的評価の高さが何によってもたらされたのか、ひろく都民の知るところとなっていたとは言え

ませんでした。

今や、大学も社会の共有財産であるとの考えから、しかるべき公的機関による第三者評価を受けつつ教育研究の継続的な改善を図るべきだとの考えが、大学人の共通認識となりつつあります。日本では、公的な大学評価の第三者機関はまだ二、三にとどまりますが、そのひとつ、文部科学省の外郭団体である大学評価・学位授与機構では、試行的な大学評価を2001（平成13）年度から3年間行ってきました。その試行評価の最終年度である今年度、初めて公立大学にも評価の対象が広げられたのを機に、東京都立大学の人文学部及び大学院人文学系では、その「分野別教育評価（人文学系）」及び「分野別研究評価（人文学系）」の評価を受けることとしました。自己評価書をもとに専門委員による評価が行われ、この10月、11月には、その評価案概要がもたらされました。それによると、教育・研究ともに、幸い、高い評価を受けているようです。

教育評価では、ネットワーク環境は整えられているものの、パソコン設置のスペースが不足していること、大学基準協会に加わりながらこれまでこの大学評価の他には教育活動の外部者評価が行われていないといった問題点の指摘がある一方、少人数の演習・実習形式の授業が多く設定されていること、専攻ごとのきめ細かな指導方法がとられていること、学生による授業評価結果で肯定的な評価を受けていること、授業評価の結果が教員にフィードバックされていることなどが優れている点と評価されています。特に、非常勤講師への依存率が低く、年齢構成・出身大学・女性教員の割合などバランスのとれた教員組織であること、修士課程の修了者には博士課程への進学者が多く、また修了者の多くが研究職に就き、高い達成度を示していることなどは、特に優れている点として強調されています。

研究評価では、個々の教員の研究活動が活発な水準にあること、特に、哲学・思想系、文学系、言語学系、史学系、考古学・文化人類学系、社会学、心理学において独創性・発展性が極めて高い研究が見られるほか、基礎研究や他分野にも貢献する質の高い研究がひろく見られることが指摘されています。また、高い専門性に裏打ちされた多岐にわたる成果をあげていること、多様な形の社会的効果をもった研究が生み出されていることも確認されています。

このように公的機関から高い評価を受ける大学・大学院が、東京都民の共有財産であることは間違いありません。そして、ここから生み出された人材は、日本の各地で教育者・研究者・高度職業人として活躍しています。ここまでの評価を受けるためには、五十有余年の歳月を費やしていることも忘れることはできません。

もちろん、都立の他の三大学（都立科学技術大学・都立保健科学大学・都立短期大学）でも、それぞれの伝統と特色を反映した教育研究上のゆたかな成果が蓄積されていることでしょう。

これらの蓄積が活かされる大学作りを切に望む次第であります。